

2025年度事業計画

2025年4月1日～2026年3月31日

特定非営利活動法人 こども∞感ばにー

ビジョン：子どもの笑顔が地域のなかで育まれるまちに

ミッション：どんなときも子どもの可能性を信じる大人であり続けます

子ども心と勇気を持って、子どもが安心して過ごせる環境を地域とともに創造し続けます

1 事業実施の方針

創立から11年が経過した2024年度は、本会がこれまでおこなってきた子どもの居場所事業から見えた“地域で子どもを見守り育てる”の理想とする『ごちゃまぜプロジェクト』の新たな拠点づくりの準備期間となった。

本年度は、プレーパークわたのはの移転と始動、フリースクールぽはっくの移転準備など、『ごちゃまぜプロジェクト』確立に向けた動きが重視される一年となる。

また、これまでおこなってきた『不登校』課題解決に向けた石巻市との対話やネットワーク事業を“『不登校』関連事業とし、石巻市の『不登校』課題に積極的な取り組みをおこなう。

また、体制や業務内容の見直しを図り、持続可能な組織運営のありかたを考えると同時に、石巻市内の企業への協力を仰ぐ資金調達方法も確立する。

《重点目標》

●プレーパークわたのはの移転と新拠点での始動

渡波中学校区に約1200坪の土地を購入し、新拠点でプレーパークを始動する。渡波中学校区内の地域住民や地域資源（行政・民間団体）、子ども誰もが当事者となりプレーパークづくりに参画できるコーディネイトとマネジメントをおこなう。

●渡波中学校区地域連携体制の構築

日常的な子どもの見守りと地域資源それぞれの特色を活かしたサポート体制を構築することで“子どもの孤立”をなくし、子ども自身が育つ力を育める環境づくりをおこなう

●石巻市の『不登校』の学ぶ権利の尊重

石巻市と対話し連携をすすめ、石巻市全域の『不登校』児童生徒一人ひとりにあった学びと出会うための施策を確立するための取り組みをおこなう。ネットワーク事業の活動に力をいれる。

●組織基盤強化と資金調達

持続可能な組織運営をおこなうために、事業と人員体制の見直しの他、本会の活動に賛同する仲間やボランティアを増やす。また、本会の支援者を増やし安定した資金調達方法を確立する。

《中長期計画》

●『ごちゃまぜプロジェクト』とは

今後本会の各事業が、このプロジェクトに関連することから、目的や事業内容を紹介する

<概要>

石巻渡波・鹿妻地区にある約 1200 坪の敷地に子育て & 子どもの遊びと居場所、学びの場を設置する。

ここは、全ての子どもが利用でき、本会のプレイワーカーや、地域住民や保護者、民間の専門職の人たちが、『地域の子どもは地域で見守り育てる』を合言葉に子どもの成長を日常的に支える場とする。

<目的>

1. 子どもの遊びと学びが保障するプレーパークは、“やってみたい”に挑戦できることで、子どもの『**生きる力**』を育む
2. なにもしなくてもいい場所は、**安心して過ごす**ことができ、困った時は**相談する大人**がいる。
3. 地域の大人と子どもが日常的に出会うことで、**子どもの孤立を防ぎ、地域の防災**にもつながる
4. 地域の大人が日常的に情報交換や関係性を構築することで、**子どもが抱える課題に対応**し地域で見守る
5. **制度にあてはまらない、制度からこぼれ落ちた子どもを地域で支える**ことで『子どもの孤立』を防ぐ。
6. 徒歩 2 分圏内にフリースクールを設置し、日常的に『**不登校**』児童生徒の遊びと学びを提供する

<事業内容> ※事業計画参照

遊び × 学び × 心のサポート

すべての子どもは“ありのまま”でいい。
子ども一人ひとりが自分の可能性を信じ、『生きる力』を育むために
「今」と「これから」を支えます。

イラストの解説

- ①プレイワーカー
- ②室内の居場所
- ③地域住民と子どもが遊ぶ
- ④地域住民の居場所
- ⑤日常的な子ども食堂
- ⑥子どもが高齢者のサポート
- ⑦高齢者の趣味の畑
- ⑧障がい児と健常児が一緒に遊ぶ
- ⑨他事業との連携

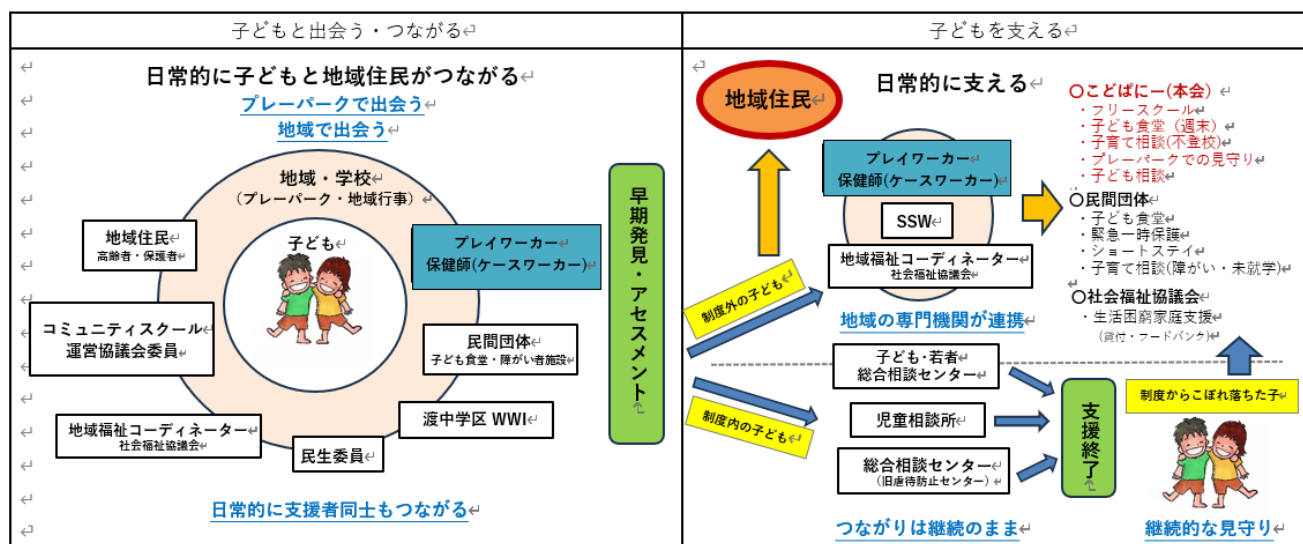


近所のおばあちゃんと畑作業

毎週末、かまどで子ども食堂

異世代がつながり育ちあう

10 年先の付き合いのおばあちゃんと子ども



「事業」

①すべての子どものための居場所（あそび場）に関する事業

◆プレイパーク事業

【目的】

- ・子どもが自分の責任で遊べる機会を創出し、子どもの生きる力を育む。
- ・子どもも地域住民も当事者となり、プレイパークが自分にとっての“居場所”となる
- ・子どもと地域住民が日常的に出会いつながることで子どもが安心して暮らせる地域となる

●プレイパークわたのは/新拠点プレイパーク（名称未定）

【目標】

- ・プレイパークわたのはの撤去・移転、新拠点プレイパークの設置に伴い、地域住民のつながりを強化し、継続的な見守り人員を増やす。
- ・未就学児親子の新規利用や保護者、地域住民の関わる機会を増やすために、親子・地域参加のイベントや地域会議を行うことでプレイパークへの関心を高める。
- ・プレイパークや子どもの居場所・あそび場の必要性を伝え、一緒に考え・つくすることで、継続的に関わり子どもを見守る目を増やしていく。
- ・地域住民が新拠点プレイパークに来所しやすい環境づくり。
- ・開催予定回数 140回
- ・来所人数 子ども延3,000名、大人1,200名

【事業内容】

・スケジュール

- 4月～5月：地域住民への説明会・個人説明
- 6月中旬：プレわたありがとうセレモニー
- 6月中旬～7月下旬：新拠点への移転作業
- 7月下旬：新拠点“プレイパーク”として始動
- 8月上旬：200坪（農業振興地）の転用申請

9月下旬：水道工事

10月：ビニールハウス（居場所）設置・電気工事他

11月：よろしくセレモニー

・開催日時：週3日～5日（始動時は週3日）

金曜日 15：00～17：00

土・日曜日 10：00～16：00

・スタッフ配置：2名～3名

・地域住民との連携

地域資源（各専門機関）との交流会、資源マップづくり

地域子ども食堂（月一回）：渡波地区まちづくり協議会と協働

・人材育成

継続ボランティア受け入れ体制の整備

●鹿妻プレーパーク“ひがこー”

【目 標】

- ・ボランティア、保護者のサポート体制を確立する
- ・プレイワークを取り入れた考え方の理解者を増やし、地域での子どもを見守る目を増やす。
- ・開催数：50回
- ・来所人数：子ども延1,100名、大人延300名 合計延1,400名

【事業内容】

- ・開催日時：毎週水曜日 15：00～17：00（冬季は16:30迄）
- ・年度内に新拠点プレーパークへの移行を検討する。
- ・地域連携
 - ごちゃまぜプロジェクトに関する学校・住民説明
 - 鹿妻小学校と子どもに関する情報交換・共有：2回

◆『不登校』関連事業

●フリースクール“ぼはっく”

【目 的】

安心して過ごせる居場所や、「やってみたい」を実現できる環境をつくり、学校に行けない子どもが、社会の中で自立するためのサポートをおこなう

【目 標】

- ・ぼはっく（居場所）を知らない子どもが5～10人増える。
- ・見学・相談のみで登録につながらない親子とも継続的につながり続け、いつでも気軽に相談や問い合わせができる体制をつくる。
- ・不登校理解を深めるために地域住民との交流の機会を増やす。
- ・石巻市学びサポートセンター登録児童生徒との交流事業：年3回
- ・開催日数：150回

- ・登録者数：64名(+新規10名)、常時利用者数：12名
- ・利用人数：延2,500名
- ・本人の意思による高校進学や復学・社会への自立：4名
- ・出席扱い学校数：在籍児童生徒が通う全校（累計15校）

【事業内容】

- ・子ども
 - 子ども会議：子ども主体の企画、季節行事、体験活動、日常の約束ごと（月2回）
 - 子どもの意思による高校進学や復学サポート
 - スタッフ会議：個別の処遇方針を決定し対応する（月2回）
- ・保護者
 - 保護者への心のサポート（面談/相談）：月1～2回
 - 保護者会実施：3回
 - 相談用のLINEアカウントを作成し、登録に至らない親御さんと繋がり続ける
- ・地域/ボランティア
 - 地域の人との交流イベント：4回（クリスマス会、ハロウィン、Be-One 交流、川開き祭り）
 - ボランティア育成：現場研修、振り返り
 - 常時来所するボランティア1名
- ・行政/教育機関
 - 行政機関との交流：東部教育事務所、市教委、子育て支援課など視察
 - 市長懇談会、市教委の本会見学会実施
 - 在籍校：個別記録を登録児の在籍校に提出（月1回）、子どもに関する情報共有（随時）
- ・環境整備
 - 子どもが過ごしやすい環境づくり（日々の掃除、庭手入れ、模様替えなど）

◆放課後児童クラブ事業

【目的】

保護者と協力しその家庭の子育てを支援すると共に、子どもが遊ぶことを通じて成長していけるよう、市内外の児童クラブと連携し、子どもの権利・主体性を尊重していく

【目標】

- ・保護者にとって子育てのパートナーになる。
- ・子どもが楽しく、安心して通い、過ごせる場所にする。
- ・学校・行政・地域と共に子どもの育成をおこなう。
- ・地域に開けた放課後児童クラブにする。

【事業内容】

- ・子ども
 - 子ども会計：6回
 - 子ども企画：10回

OBOG参加イベントの実施：1回

お手紙box・欲しいものbox：常設

外部講師を招いて遊び企画を実施：2回（一日開所時）

・スタッフ育成

外部・内部研修：6回

他の児童クラブや児童館との人材交流：2回

子どもの声や要望、アイデアを形にするまでのフローの構築

子どもが主体的に児童クラブの運営に携わる仕組みづくり

・保護者

児クラだより発行：週1(50回)、月1(2回)、番外編(長期休み時5回、保護者参観4回)

保護者参観：4回

・地域連携

地域ボランティア：4回

中学生ボランティア：3回

・学校との連携

教員との学校外の交流：2回

体育館利用：8回

児クラ活動に教員を招く：2回

学校との定期的な情報交換：12回

校長先生のお誕生日会：1回

・行政

行政との協議・振り返り情報交換会：1回

・環境づくり

新規の遊び環境・企画の導入：12回（スタッフ予算：4万円）

◆ネットワーク事業

●石巻のプレーパークと子どもの遊びを考える会

【目 的】

石巻全域の子どもが、自らの足で出向ける場所にプレーパーク（居場所）があり、地域で子どもを見守る体制を構築することで、子どもの孤立を防ぎ、安心して暮らせる地域づくり

【目 標】

4年後までに、石巻市内13か所の子どもの居場所（児童館、プレーパーク）設置を目指し、構成団体や地域住民と連携して子どもの居場所を増やすための取組をおこなう。

【事業内容】

- ・役員会議 月1回程度（組織体制づくり/事業計画）
- ・『子どもの居場所』シンポジウム
- ・総会開催

●渡中学区WW I (わっしょい渡波委員会)

【目 的】

渡波中学校区の子どもが地域で見守られ、安心して暮らせる地域をつくる

【目 標】

- ・地域住民メンバー30名（+5名）

【事業内容】

- ・渡波中学校区(小学校2校、中学校1校)のPTAや民生委員、社会福祉協議会などと「地域の子どもは地域で見守り育てる」を合言葉に渡波地区の任意団体として地域活動や学校行事お手伝いなどおこなう。
- ・コミュニティスクール運営委員として、学校や児童生徒と地域のパイプ役となり、地域に開けたコミュニティスクール化を図る。
- ・定例会議 月1回程度
- ・イベント
肝試し大会や逃走中など、子どもアンケートを実施し決定
- ・地域活動への協力
渡波中学校生徒企画 バザーへのサポート（6月・10月）
鹿妻小PTA秋祭りサポート など

●多様な学びを共につくる・みやぎネットワーク

【目 的】

教育機会確保法の理念を基に、宮城県内の民間の団体・教育委員会・行政などのネットワークを構築し、子どもが選択できる多様な居場所が保障される地域社会をつくる

【目 標】

- ・不登校支援団体や議員を含む市民が連携し、行政と協働を図るための体制づくり
- ・多様な学びに関する協議会設置

【事業内容】

- ・定例会議 月1回程度（総会、事業計画、資金調達）
- ・研修会(教育機会確保法、先進事例検討会、不登校理解を深める講座実施など)
- ・行政、県議会議員との意見交換会

●まずは石巻から不登校という言葉がなくすネットワーク

【目 的】

子ども一人ひとりが自分に合った学びの場に出会い、安心して暮らせる社会をつくる

【目 標】

- ・多様な学びの選択肢の必要性に関する理解者を官民が連携して増やす。
- ・「不登校は問題行動ではない」「居場所の必要性」について理解者を官民が連携して増やす。
- ・構成メンバー：15名

【事業内容】

- ・ 定例会議：月1回程度（事業計画立案）と情報交換会（月1回程度）
- ・ 親の会：講演会＆親の会 2回
- ・ 多様な学びシンポジウム（前『不登校』シンポジウム）1回
- ・ 石巻市長への提言

②子育てサポート事業

【目 的】

気軽に子育て相談ができる環境と、市内に少ない不登校相談窓口を設置することで、孤立した保護者のサポートをおこなう

【目 標】

相談件数：延べ120件（子どもを遊ばせながらの“ながら相談”含む）

【事業内容】

- ・ 面談式相談（事前予約）：平日10：00～18：00 ※オンラインや電話での相談も可
- ・ ながら相談：プレーパーク開催時随時受け入れ

③自然体験プログラム事業

新拠点プレーパークでの自然体験プログラムやフリースクールの体験学習において実施

④前各号に掲げる活動の推進を図るための啓発及び情報発信と人材育成事業

●啓発事業（講座/研修）

- ・ 講師派遣：外遊びの大切さ講座/愛着形成がもたらす親子関係/プレーパークのつくり方/不登校を理解するための講座 など10回程度
- ・ あそびの出前

●情報発信事業

HPリニュアル / 会報誌「だん子むし」800部発行 / SNS配信（Facebook、Instagram、X、ブログ 1回/週）、プレスリリース（月1回）/メールマガジン（月1回程度）

●人材育成事業

- ・ 事業スキル向上のためのスタッフ研修
プレイワーク/マルトリートメント/リスクマネジメント/子どもとの関わり方/多様な学びに関する研修/児童クラブに関する研修（県児連開催等）、他の児童クラブや児童館との人材交流
- ・ 組織運営のためのスタッフ研修
資金調達（寄付・会員拡大他）
- ・ 外部人材育成
ボランティア（市内高校生、市内在住の大学生、県外）/インターン受け入れ
視察受け入れ など

⑤その他、本会の目的を達成するために必要な事業

●主たる活動地域内

コミュニティスクール運営委員会（渡波中・鹿妻小）/石巻市社会福祉推進委員会 /子ども・若者支援
地域協議会（石巻圏域） /不登校児童生徒の支援に関する情報交換会（宮城県教育委員会） /不登校
支援ネットワーク連絡会議（東部教育事務所）/石巻市不登校懇談会（石巻市教育委員会）
/SSW連絡会議（石巻市教育委員会） /子どもの居場所懇談会（石巻市福祉部子育て支援課）/石巻市都
市計画審議会

●他団体との連携

NPO法人子どもにやさしいまちづくり理事 3回程度 /NPO法人にじいろクレヨン理事 年4回

≪組織基盤強化≫

①資金調達

【目 的】

一過性助成金や補助金に頼らない、自主財源を主に事業展開する

【目 標】

寄附（継続サポーター、企業含む）、自主事業収益、謝金、合計1,027万円

・企業寄付 20社

・継続サポーター121名

・一般寄付（クラウドファンディング、みやぎチャレンジプロジェクト含む）

【事業内容】

・資金調達の中期（3か年）計画を立案・実施

2 事業の実施に関する事項

事業名	事業内容	実施日	実施場所	従事者名	受益者	事業費(円)
①すべての子どものための居場所(あそび場)に関する事業	プレーパーク事業 ・プレーパークわたのは ・鹿妻プレーパークひがこー	金・土・日 水	渡波 鹿妻	4名 2名(未定)	幼児 ～高校生 地域住民	20,000,000
	フリースクール事業 ・フリースクールぼはっく ・面談/相談	火・木・金曜 随時	鹿妻 鹿妻・渡波	3名 1名		
	放課後児童健全育成事業	随時	渡波	8名	-	18,260,000
	地域連携・ネットワーク事業 ・石巻のプレーパークと子どもの遊びを考える会 ・多様な学びを共につくる・みやぎネットワーク ・渡中学区WWI ・まずは石巻から不登校という言葉がなくすネットワーク	15回/年 15回/年 15回/年 10回/年	宮城県内	2名 1名 2名 2名		300,000
②子育てサポート事業	・子育て/不登校相談	随時	渡波	1名	-	100,000
③自然体験プログラム事業	※活動予定なし	-	-	-	-	-
④前各号に掲げる活動の推進を図るための啓発及び情報発信と人材育成事業	啓発事業 ・講師派遣 ・活動報告会(石巻・オンライン)		石巻市内 石巻市内	2名 3名以上	-	2,940,000
	情報発信事業 ・HP改訂と拡散 ・会報誌「だんごむし」 ・ブログ ・Facebook / Instagram/X ・プレスリリース ・メールマガジン ・各事業パンフレット配布	7月～12月 年4回 月4本 週1回 月1回 月1回	-	1名 全スタッフ 全スタッフ 1名 3名 3名	-	
	人材育成事業 ・カウンセリング研修・事例検討 ・プレイワーク、振り返り研修他	年1回 通年	県内 石巻市内	2名 全スタッフ	-	
⑤その他、本会の目的を達成するために必要な事業	・主たる活動地域内での委員 ・石巻市内における委員や役員	随時 随時	石巻市内 石巻市内	1名 1名	-	330,000

3 事業実施体制

(1) 会議に関する事項

理事会の開催（年4回他必要に応じて開催）

(2) 運営体制

運営に関わるスタッフは以下の通り

代表：田中雅子

常勤スタッフ：3名

非常勤スタッフ：10名（児童クラブ長期休み期間の非常勤含まない）

(3) 会員

【目 標】

・正会員 35名(+4名)

・継続サポーター 121名(+20名)

(4) ボランティア（県内の高校生・大学生を中心に受け入れ/短期含む）：20名

(5) 地域社会や他団体との連携について

宮城県教育委員会、宮城県共同参画推進課、宮城県東部児童相談所、宮城県東部教育事務所、石巻市教育委員会、石巻市福祉部子育て支援課・保育課、石巻市都市計画課、石巻市総合相談センター、石巻市社会福祉協議会、石巻市立渡波小学校、石巻市鹿妻小学校、石巻市渡波中学校、他小中学校多数、株式会社ノア、公益社団法人3.11メモリアルネットワーク、NPO法人ベビースマイル石巻、NPO法人TEDIC、NPO法人にじいろクレヨン、NPO法人子どもにやさしいまちづくり、一般社団法人プレーワーカーズ、多様な学びを共につくる・みやぎネットワーク加盟団体、サウンドハウスこどものみらい財団など連携団体は多数

以上